

第 16 回日本免疫毒性学会 総会（兼評議員会）議事録

日 時：平成 21 年 8 月 27 日 午後 1 時 15 分～午後 1 時 45 分

場 所：旭川市民文化会館小ホール(北海道旭川市 7 条通 9 丁目)

年会長が議長を務めることになっているため吉田年会長を満場一致で議長に選出した後、総会が開催された。なお報告資料はスライド映写にて行った。

1. 理事長挨拶：澤田理事長より旭川での学術大会へ多くの会員の参加及び学術大会の準備・運営に協力頂いた関係者に対してお礼が述べられ、限られた時間ではあるが十分な審議をお願いしたい旨の挨拶があった。

2. 会務報告

(ア)事務局報告：①会員動向、②会費納入状況、③HP でのバナー広告の現状

会員数は平成 19 年度がピークとなっているが、平成 20 年度に会費 3 年以上未納者を自動退会として見直したので、見かけ上減少しているが、実質は横ばいというところである。また、ここ 2 年の会費納入状況は 90% 程度と良好になっていることが報告された。

ホームページのバナー広告は現在 6 社と契約しており、1 社は半年期契約で取り下げられたことが報告された。

会員動向・会費納入状況



(イ)学術大会

①第 15 回（東京）終了後報告：澤田第 16 回年会長より、昨年タワーホール船堀で実施された第 15 回学術大会は盛会裏に終了したことに対してお礼が述べられ、参加者 187 人に高校生の見学参加者が 12 名であったこと、東京であったためか当日参加者が多かったことが報告された。

②第 16 回（旭川）学術大会：吉田年会長より改めて参加に対するお礼と活発な討論をお願いする旨が述べられ、総会後もシンポジウムなどの企画があり、十分に学術的に楽しんでいただきたい旨が述べられた。

③第 17 回（つくば）学術大会：藤巻年会長には最後に次期会長挨拶のところで詳細を報告していただくこととし、次回の学術大会がつくば市で開催される旨報告された。

(ウ)大沢賞の新設：事務局大槻理事より、現在学術大会において年会賞と奨励賞が設定されているが、さらに業績あるいは論文という観点を踏まえて、かつ前理事長の大沢先生のこれまでの本学

会への貢献、ひいては日本の免疫毒性学の発展への貢献を称えて大沢先生のお名前を冠する賞を新設することが提案された。こ

HP:バナー広告現状

区別	継続確認	バナー種類	期間	入会確認	会社名	担当者	窓口
終了		1 試案	2008.07-2008.12	2008.6.25	岩井化学薬品株式会社	大久保 貴之	83 澤田先生
終了	2008.11 月末	継続	2008.01-2009.06	2009.1.20			
継続中	2009.5 月末	継続	2009.07-2009.12	2009.7.17			
	2009.11 月末						
終了		2 機器	2008.11-2009.04	2009.10.6	株式会社 大熊	岡本 和義	270 大槻先生
継続中	2009.2 月末	継続	2009.05-2009.10	2009.5.21			
	2009.8 月末		2009.11-2010.04				
終了		3 機器	2009.02-2009.07	2009.1.20	株式会社 池田理化	津久井 真紀	298 野原先生
継続中	2009.6 月末	継続	2009.08-2010.01	2009.7.17			
	2009.12 月末						
終了		4 試案	2009.02-2009.07	2009.1.5	株式会社 ベリタス	瀬川 剛二	85 手島先生
確認済み	2009.6 月末	継続中					
継続中		5 試案	2009.05-2009.10	2009.4.21	広瀬化学薬品株式会社	森 直樹	225 吉野先生
	2009.9 月末	継続					
継続中		6 試案	2009.05-2009.10	2009.6.12	和光純薬工業株式会社	馬場 啓之	80 手島先生
	2009.9 月末						
継続中		7 機器	2009.08-2010.01	2009.6.25	日本エアーテック株式会社	白石 啓一郎	17 香山先生
	2009.12 月末						

(イ)学術大会

- ①第 15 回（東京）終了後報告
- ②第 16 回（旭川）
- ③第 17 回（つくば）（最後にご挨拶）

(ウ)新設:大沢賞

の賞の詳細については1年間検討委員会を設け、次年度の理事会・総会において承認を受けた上で、次々年度より実施したい旨が述べられ、承認された。

3. 委員会報告:事務局大槻理事より以下総括して報告された。

(ア)学術・編集委員会:年2回のImmunoTox Letterの刊行は順調であること。

(イ)広報委員会:HPでは関連学会やシンポジウムなどの案内も掲載していること、ならびにバナー広告についてはHPのデザインを現状に即して改訂すること。

(ウ)試験法委員会:翌日のワークショップに向けて準備してきたこと、今後は会員からの要望等に応え、また新規化合物の免疫毒性試験にとどまらず学術的な側面での対応も考えたいのではありません。非ご意見をお寄せいただきたいこと。

(エ)国際化委員会:昨年末に米国 Society of Toxicology (SOT)内の Immunotoxicology Specialty Section (ISS)と契約が交わされ、それぞれの学術大会に会員を派遣し、交流を深めることが決まったこと、相互に宿泊費等の負担をすること、一方、アジアについては現在進展がないこと。

4. 審議事項

(ア)会計

①平成20(2008)年度決算(案):吉田理事より2008年度の決算案が提示された。

3. 委員会報告

(ア)学術・編集委員会

(イ)広報委員会

(ウ)試験法委員会

(エ)国際化委員会

日本免疫毒性学会 平成20年度(2008年度) 決算報告 (案)

収入			(単位円)
科目	補正予算	決算	備考
前年度(2007年度)繰越金	441,230	441,230	内訳(一般209、一般過去年度20、学生7名)
H20年度(2008年度)会費	1,422,000	1,388,000	
第15回学術大会総会戻し金		372,970	
ホームページ・バナー広告	200,000	190,000	
学会抄録		2,000	
雑収入	1,000	587	銀行預金利子
収入合計	2,064,230	2,394,787	

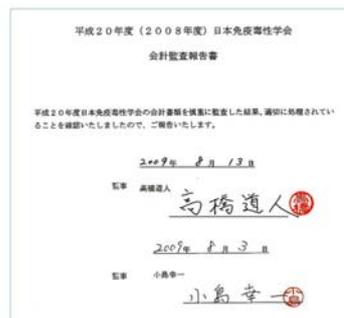
支出			
科目	補正予算	決算	備考
第16回学術大会(旭川)運営費	600,000	600,000	会議費(委員交通費) 切手・葉書、宅配便、電話 2号分 文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等 次年度(2009年度)への繰越
会議費	400,000	339,800	
通信費	150,000	92,274	
News Letter 制作費	150,000	147,000	
事務費	200,000	212,947	
ホームページ維持費	300,000	396,899	
予備費	264,230	605,867	
支出合計	2,064,230	2,394,787	

基金会計

収入			
科目		決算	備考
寄付		200,000	寄付(会員1名、20万円)
収入合計		200,000	

支出			
科目		決算	備考
予備費		200,000	次年度(2009年度)への繰越
支出合計		200,000	

②平成20年度(2008年度)監査報告：小島監事より、高橋監事共々実施した監査において、会計は適正に処理されていることを確認した旨が報告された、なお、事務費のアルバイト代が前年分未支払いとなっているので、次年度に2年度分を支払い、会計年度に追いつくように示唆をした点も報告された。以上の決算案について審議され承認された。



③平成21年度(2009年度)補正予算(案)について：吉田理事より資料に沿って説明され、監査で指摘された未払いのアルバイト代を2年分支払うこと、また国際化委員会報告でもあったSOT-ISSとの交流事業のための派遣費を計上し、加えて、取り決めに従い学会大会の払戻金を基金会計に入れることを実施するため、2010年度への繰越金は10万円を下回る事態となっていることが報告された。審議の結果、本予算案は承認された。

日本免疫毒性学会 平成21年度(2009年度) 補正予算案

一般会計

収入				(単位円)
科目	暫定予算	補正予算	備考	
前年度(2008年度)繰越金	264,230	605,867		
H21年度(2009年度)会費	1,428,000	1,434,000	内訳(一般会員会費納入義務者数239名、2009年7月現在)	
ホームページ・パンナー広告	200,000	360,000	6社程度見込	
雑収入	1,000	1,000	銀行預金利子2008年度実績 587円	
収入合計	1,893,230	2,400,867		
支出				
科目	暫定予算	補正予算	備考	
第17回学会大会(つくば)運営費	600,000	600,000		
第49回SOT年会派遣助成		100,000	2010年3月 Saltlake city(大槻先生)	
基金会計へ振替		372,970	第15回学会大会(東京)戻し金	
会議費	400,000	350,000	会議費(委員交通費、2008年度実績 339,800円)	
通信費	150,000	100,000	切手・葉書、宅配便、電話(2008年実績 92,274円)	
News Letter 制作費	150,000	150,000	2号分(2008年実績 147,000円)	
事務費	200,000	350,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代(2年分)等	
ホームページ維持費	300,000	300,000		
予備費	93,230	77,897	次年度(2010年度)への繰越見込み	
支出合計	1,893,230	2,400,867		

基金会計

収入			
科目		予算	備考
前年度(2008年度)繰越金見込み		200,000	
通常会計より振替		372,970	第15回学会大会戻し金
雑収入		100	利子
収入合計		573,070	
支出			
科目		予算	備考
予備費		572,970	次年度(2010年度)への繰越見込み
支出合計		572,970	

④会費について：澤田理事長より、只今承認された今年度(2009年度)補正予算案で次期繰越金が非常に少なくなっていること、しかし、国際化事業などは本学会の活性化と将来のために必須であることを考え、一般会員の年会費を6,000円から8,000円に値上げすることが提案された。審議の結果、満場一致で承認された。

会費について

一般会員 年会費
6,000円 → 8,000円

学生会員 2,000円、賛助会員 50,000円は別途

⑤平成22年度(2010年度)暫定予算(案)：吉田理事により会費値上げの承認を受け、次年度の暫定予算案が提示された。

バナー広告が現在の6社から10社に見積もられ、少々改善されているようだが、SOT-ISSとの交流事業などを十分に実施するにはまだまだ些少でもあることが報告された。

日本免疫毒性学会 平成22年度(2010年度) 暫定予算案

収入		(単位円)
科目	暫定予算	備考
前年度(2009年度)繰越金見込み	77,897	
H22年度(2010年度)会費	1,912,000	内訳 一般会費8,000円×一般会員会費納入義務者数239名、2009年7月現在)
ホームページ・バナー広告	600,000	10社程度見込
雑収入	1,000	銀行預金科子2008年度実績 587円
収入合計	2,590,897	

支出		
科目	暫定予算	備考
第18回学術大会(千葉)運営費	600,000	
第50回SOT年会派遣助成	100,000	2011年3月 Washington D.C.(吉田先生)
会議費	350,000	会議費(委員交通費、2008年度実績 339,800円)
通信費	100,000	切手・葉書、宅配便、電話(2008年実績 92,274円)
News Letter 制作費	150,000	2号分(2008年実績 147,000円)
事務費	200,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ維持費	300,000	
予備費	790,897	次年度(2011年度)への繰越見込み
支出合計	2,590,897	

基金会計

収入		
科目	予算	備考
前年度(2009年度)繰越金見込み	572,970	
雑収入	200	科子
収入合計	573,170	

支出		
科目	予算	備考
予備費	573,170	次年度(2011年度)への繰越見込み
支出合計	573,170	

審議の結果、本暫定予算案は承認された。

⑥バナー広告について：事務局大槻理事より、バナー広告については昨年度の理事会において理事は一人1社バナー広告もしくは賛助会員の招聘が義務付けられているが、出来れば評議員の先生方にもこの努力をお願いした旨報告された。

(イ)会則・諸規定：事務局大槻理事より、審議・承認を受けた会費の値上げについては次年度より諸規定を変更することが述べられ、承認された。

(ウ)人事

①名誉会員、理事：事務局大槻理事より、現段階で推薦等ないことが報告され、了承された。

②評議員：事務局大槻理事より、新藤智子氏(財食品薬品安全センター秦野研究所毒性部毒性学第2研究室、推薦者：小島幸一、大槻剛巳両評議員)が新評議員候補として申請されており、理事会での審議は終了し、了承されていることが報告され、総会に諮られ満場一致で承認された。

③新理事・評議員の委嘱期間：事務局大槻理事より、現在の規定では理事・評議員の3年間の任期中に総会で新理事・新評議員に委嘱された会員の委嘱時期は翌年4月からとなっているが、積極的に学会活動に参画していただくためにも、総会翌日からの委嘱とし、任期は該当時期の理事・評議員の任期満了までとすることが提案され、承認された。なお、任期切れとなる年度では、特に理事長・理事職については、年度が替わる時期での交代とすること、評議員については、従来退会等の申し出がない限り、継続的に評議員を委嘱しているが、今後は総会での承認翌日から委嘱することとし、年度交替時期に理事会にて審査を行い、問題な

れば更新することとする。

④次々年度学術大会年会長：澤田理事長より次々年度第18回学術大会の年会長に千葉大学大学院薬学研究院高齢者薬剤学研究室 上野光一理事を推挙したい旨提案され、承認された。なお、上野先生の内諾は得られていること、今回は大学院入試等の関連で参加されていないことが報告された。

⑤SOT-ISS への派遣について：既に国際化委員会にて報告があったように2010年は大槻理事、2011年は吉田理事が派遣されることで了解された。

(エ)評議員の在り方について：牧理事より、評議員は一般会員の中から評議員2名の推薦を得て、理事会での審議の後、総会で承認され委嘱されており、本学会の運営を司る理事候補者でもあるので、評議員には本学会の活性化のために進んで委員会活動への参画、意見具申等をお願いした。また、学会自体も国際化に向けて動き出しており今後評議員の先生方には更なる支援をお願いしたいと意見が述べられた。

(オ)事業報告、事業計画について：澤田理事長より、本学会では従来、理事会・総会での会務報告を以って代用していたため事業計画・事業報告書は作成していなかった。次年度からは事業計画書を作成し、理事会・総会でその報告と案の審議を行うこととする旨の提案があり、承認された。

5.その他：特に意見等なし

6.次期会長挨拶：藤巻第17回年会長より、「感受性」をテーマとして取り上げ、そのキーワードから免疫毒性研究の新展開を図るような会になるように努力したい旨報告された。また、事務局、実行委員会も組織され、残り1年間の準備に当てる旨告げられた。

第17回日本免疫毒性学会学術大会(案)

テーマ：感受性を考慮した免疫毒性研究の新展開
—環境・遺伝・時間要因—



主旨：環境化学物質や医薬品における免疫毒性評価において、感受性の問題は、切り離すことの出来ない重要な課題であるにもかかわらず不明な点が多く残されている。本学術大会では、生体内に取り込まれる意図的、非意図的因子に対する免疫毒性研究において、感受性がどのように、どの程度関与するのかを討議して今後の新たな展開に役立てたいと考えている。

日時：2010年9月9日(木)、10日(金)

場所：独立行政法人国立環境研究所大山記念ホール
(茨城県つくば市小野川16-2)

年会長：藤巻秀和
独立行政法人国立環境研究所環境リスク研究センター

事務局：野原恵子

実行委員会：高野裕久、平野靖史郎、野原恵子、山元昭二
小坂忠司、藤巻秀和

文責 事務局 川崎医科大学 衛生学 大槻剛巳